

バージョン9 リリース 1.2
2015 年 10 月

IBM Campaign リリース・ノ ート

The IBM logo, consisting of the letters "IBM" in a bold, sans-serif font, with each letter formed by eight horizontal stripes of varying lengths.

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBMCampaign バージョン 9、リリース 1、モディフィケーション 2 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Version 9 Release 1.2
October 2015
IBM Campaign Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1998, 2015.

目次

第 1 章 IBM Campaign v9.1.2 システム要件と互換性	1
IBM Campaign の使用の前提条件	1
IBM Campaign の資料のロードマップ	2
第 2 章 IBM Campaign 9.1.2 の新機能	5
IBM Knowledge Center	5
中国語 (繁体字) サポート	5
フローチャート・タブの再設計	5
IBM Campaign REST API	6
ユーザー・データ・ソースとしての IBM dashDB の使用	6
ユーザー・データ・ソースとしての HP Vertica の使用	6
ユーザー・データ・ソースとしての Amazon Redshift の使用	6
Apache Hive over Hadoop をユーザー・データ・ソースとして使用するビッグデータ統合	7
Hive ベースの Hadoop データ・ソースに関する要件と制限	8
9.1.2 の Campaign dataSource 構成設定に対する変更	9

第 3 章 IBM Campaign9.1.2 の修正された問題	11
第 4 章 IBM Campaign 9.1.2 の既知の問題	13
第 5 章 IBM Campaign 9.1.2 の既知の制限	17
第 6 章 IBM Campaign Reports Package	21
IBM 技術サポートへのお問い合わせ	25
特記事項	27
商標	29
プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項	29

第 1 章 IBM Campaign v9.1.2 システム要件と互換性

IBM®Campaign は、IBM EMM 製品スイートの一部です。Campaign バージョン 9.1.2 には Marketing Platform 9.1.2 が必要です。Campaign は、バージョン 9.1 および 9.1.1.x から 9.1.2 (eMessage を含む) にアップグレードできます。

完全なシステム要件と互換性情報の保管場所

この製品と互換性がある IBM EMM 製品バージョンのリストおよびこの製品に対するサード・パーティー要件のリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という文書を参照してください。この資料は、IBM Support Portal Web サイト (<http://support.ibm.com>) の「詳細なシステム要件 (Detailed System Requirements)」の下にあります。

この資料には、IBM EMM にログインしているときに、「ヘルプ」>「製品資料」を選択することでもアクセスできます。

IBM Campaign の使用の前提条件

IBM Campaign の使用を開始する前に、ご使用の環境が次の要件を満たしていることを確認してください。

- ユーザー・エクスペリエンスを向上させるには、最低でも 21 インチのスクリーンを使用します。
- ユーザー・エクスペリエンスを向上させるには、画面解像度を 1600 x 900 に設定します。それより下の解像度では、一部の情報が正常に表示されない場合があります。低い解像度を使用する場合、ブラウザー・ウィンドウを最大化してより多くのコンテンツが表示されるようにしてください。
- ユーザー・インターフェース間をナビゲートするには、マウスが最適です。
- ブラウザーのコントロールを使用してナビゲートしないでください。例えば、「戻る」や「進む」ボタンの使用は避けてください。その代わりに、ユーザー・インターフェースにあるコントロールを使用してください。
- ポップアップ・ブロッカー (広告ブロッカー) のソフトウェアがクライアント・マシンにインストールされている場合、IBM Campaign は正しく機能しないことがあります。最良の結果を出すには、IBM Campaign の実行時にポップアップ・ブロッカー・ソフトウェアを無効にします。
- 技術環境が最小システム要件とサポートされるプラットフォームを満たしていることを確認してください。*
- 適切なブラウザーとそのバージョンを使用している必要があります。*
- アップグレードやフィックスパックの適用後に、ブラウザー・キャッシュをクリアしてください。これは、アプリケーションを更新した後の 1 度だけ行う必要があります。
- Internet Explorer (IE) を IBM Campaign や、Campaign フローチャートを使用するいずれかのモジュール (eMessage、Contact Optimization、Interact、Distributed Marketing) と使用する場合: 情報を横並びに表示するために複数回ログインする

には、IE を開いて IBM EMM にログインします。そして、IE メニュー・バーで「ファイル」 > 「新規セッション」を選択します。新規 IE ブラウザー・ウィンドウで、IBM EMM に同じユーザーまたは別のユーザーとしてログインします。

重要: これ以外の方法で複数のセッションを開かないでください。例えば、新しいタブを開いたり、「スタート」メニューまたはデスクトップ・アイコンから別のブラウザ・セッションを開いたり、IE の「ファイル」 > 「新規ウィンドウ」を使用したりしないでください。これらの方法を使用すると、アプリケーションに表示される情報が破損する恐れがあります。

*アスタリスクが示される項目の詳細については、「*IBM Enterprise Marketing Management (EMM) Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」を参照してください。

IBM Campaign の資料のロードマップ

IBM Campaign では、ユーザー、管理者、および開発者向けの資料とヘルプが用意されています。

表 1. 稼働

作業	資料
新機能、既知の問題、および制約について調べる	<i>IBM Campaign</i> リリース・ノート
Campaign システム・テーブルの構造について学習する	<i>IBM Campaign System Tables and Data Dictionary</i>
Campaign をインストールまたはアップグレードする	以下のいずれかのガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>IBM Campaign</i> インストール・ガイド • <i>IBM Campaign</i> アップグレード・ガイド
Campaign により提供される IBM Cognos® レポートを実装する	<i>IBM EMM Reports</i> インストールおよび構成ガイド

表 2. Campaign の構成と使用

作業	資料
<ul style="list-style-type: none"> • 構成およびセキュリティーの設定を調整する • ユーザーのために Campaign を準備する • ユーティリティーを実行し、メンテナンスを実施する • 統合について学習する 	<i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド
<ul style="list-style-type: none"> • マーケティング・キャンペーンを作成して配置する • キャンペーンの結果を分析する 	<i>IBM Campaign</i> ユーザー・ガイド
フローチャート・パフォーマンスを改善する	<i>IBM Campaign</i> チューニング・ガイド
Campaign の機能を使用する	<i>IBM EMM IBM</i> のマクロ ユーザー・ガイド

表 3. Campaign と他の IBM 製品との統合

作業	資料
IBM eMessage との統合	<p><i>IBM Campaign</i> インストール・ガイドおよびアップグレード・ガイド: ローカル環境に eMessage コンポーネントをインストールして準備する方法。</p> <p><i>IBM eMessage</i> 起動および管理者ガイド: ホストされたメッセージング・リソースへの接続方法。</p> <p><i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド: オファーの統合を構成する方法。</p>
IBM Digital Analytics との統合	<p><i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド: 統合を構成する方法。</p> <p><i>IBM Campaign</i> ユーザー・ガイド: マーケティング・キャンペーンの Web 分析セグメントを対象にする方法。</p>
IBM SPSS® Modeler Advantage Marketing Edition との統合	<i>IBM Campaign</i> および <i>IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition</i> 統合ガイド
IBM Marketing Operations との統合	<i>IBM Marketing Operations</i> および <i>IBM Campaign</i> 統合ガイド
IBM Opportunity Detect との統合	<p><i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド: 統合を構成する方法。</p> <p><i>IBM Opportunity Detect</i> 管理者ガイド および <i>IBM Opportunity Detect</i> ユーザーズ・ガイド: 製品を管理および使用する方法。</p>
IBM Silverpop Engage との統合	<i>IBM Campaign and IBM Silverpop Engage Integration Guide</i>
<p>注: この表にはリストされていない追加の統合を使用できる場合があります。 IBM Campaign の製品ツールおよびユーティリティ。 IBM Solution Engineering Projects も参照してください。</p>	

表 4. Campaign 用の開発

作業	資料
REST API の使用	IBM Knowledge Center を参照
SOAP API の使用	<ul style="list-style-type: none"> <i>IBM Campaign SOAP API Guide</i> devkits\CampaignServicesAPI 内の JavaDoc
Campaign に検証を追加するために、Java™ プラグインまたはコマンド・ライン実行可能ファイルを開発する	<ul style="list-style-type: none"> <i>IBM Campaign</i> 検証 PDK ガイド devkits\validation 内の JavaDoc

表 5. ヘルプの入手

作業	手順
IBM Knowledge Center の使用	http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSCVKV/product_welcome_kc_campaign.dita にアクセスします。
オンライン・ヘルプを開く	<p>IBM Campaign アプリケーションを使用しているときに、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> コンテキスト・ヘルプ・トピックを開く場合は、「ヘルプ」>「このページのヘルプ」を選択します。 ヘルプ全体を表示する場合は、ヘルプ・ウィンドウ内の「ナビゲーションの表示」アイコンをクリックします。

表 5. ヘルプの入手 (続き)

作業	手順
PDF の取得	<p>IBM Campaign アプリケーションを使用しているときに、以下のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Campaign の PDF にアクセスするには、「ヘルプ」>「製品資料」を選択します。 • すべての製品 PDF にアクセスするには、「ヘルプ」>「すべての IBM EMM Suite 資料」を選択します。 • IBM EMM インストーラーのインストール・プロセスで各リンクをクリックします。
サポートの利用	<p>http://www.ibm.com/ に移動し、「サポート & ダウンロード」をクリックして IBM サポート・ポータルにアクセスします。</p>

第 2 章 IBM Campaign 9.1.2 の新機能

IBM Campaign バージョン 9.1.2 には、いくつかの新機能と変更点が含まれています。

新しくサポートされるプラットフォームと、サポートが廃止されたプラットフォームのリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という資料を参照してください。この資料は、IBM サポート・ポータル Web サイト (<http://support.ibm.com>) の「詳細なシステム要件 (Detailed System Requirements)」の下にあります。

IBM Knowledge Center

現在、すべての製品資料が以下の IBM Knowledge Center で提供されています。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/>

必要なトピックを見つけるために、製品ファミリー内または製品ファミリー間で参照または検索することができます。単一の製品内で検索するには、目次で製品ファミリーを展開し、製品を選択してから、検索項目を入力します。「検索フィルター」をクリアするには、ツールバーの **X** をクリックします。詳しくは、ツールバーの右上にある「ヘルプ」アイコンをクリックしてください。

中国語 (繁体字) サポート

IBM Campaign v9.1.2 は、中国語 (繁体字) ロケールをサポートしています。

ユーザーは IBM EMM 製品をインストールする際に「中国語 (繁体字)」を選択することもできます。

フローチャート・タブの再設計

IBM Campaign v9.1.2 では、以下のフローチャート・タブの設計が変更されています。

キャンペーンに多数のフローチャートが含まれている場合、フローチャートはタブ付きインターフェースの単一行に表示されます。別のフローチャート・タブに移動するには、タブの右側にあるアイコン（「最初」、「前へ」、「次へ」）を使用します。すべてのフローチャート・タブを表示するには「展開」アイコン (+) をクリックし、単一行の表示に戻るには「省略」アイコン (-) を使用します。

ブラウザーの検索機能 (Ctrl+F など) を使用して、フローチャート・タブを検索できます。強調表示された検索結果を表示するには、ビューを展開する (+) 必要がある場合があります。

IBM Campaign REST API

IBM Campaign v9.1.2 では、キャンペーン、オファー、オファー・リスト、属性、およびターゲット・セルのオブジェクトと対話するための REST API が導入されています。

IBM Campaign REST API について詳しくは、IBM Knowledge Center を参照してください。

IBM Marketing Platform には、この API のためのセキュリティー・フレームワークが用意されています。「設定」 > 「構成」を選択し、**IBM Marketing Platform | Security | API management** カテゴリの構成プロパティを使用します。

ユーザー・データ・ソースとしての IBM dashDB の使用

IBM dashDB は、IBM Campaign v9.1.2 のユーザー・データ・ソースとしてサポートされています。

IBM dashDB は、Cloudant プラットフォームと Bluemix プラットフォームで使用可能な完全管理クラウド・データウェアハウジング・サービスです。

IBM dashDB は、IBM Campaign で既存の **DB2Template.xml** を使用します。dashDB データ構造は、IBM DB2 BLU と似ています。

ユーザー・データ・ソースとしての HP Vertica の使用

HP Vertica は、IBM Campaign v9.1.2 のユーザー・データ・ソースとしてサポートされています。

既存の **PostgreSQLTemplate.xml** を使用します。すべての基本 (標準) データ型がサポートされています。このリリースの現行バージョンでは、COPY コマンドはサポートされていません。

ユーザー・データ・ソースとしての Amazon Redshift の使用

Amazon Redshift は、**PostgreSQL ODBC** ドライバーを使用することで、ユーザー・データ・ソースとしてサポートされます。

新しく導入された **PostgreSQLTemplate** を IBM Campaign でデータ・ソース・テンプレートとして使用します。

Campaign での Amazon Redshift ユーザー・データベースは、Windows および Linux オペレーティング・システムでのみサポートされています。Amazon Redshift データベースは、システム・テーブルとしてはサポートされません。

Amazon Redshift をデータ・ソースとして使用方法については、以下の資料を参照するか、IBM Knowledge Center を検索してください。

資料	Amazon Redshift のサポートに関する情報
IBM Campaign リリース・ノート	<ul style="list-style-type: none"> 9.1.2 での IBM Campaign 構成設定に対する変更 既知の問題と制限
推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件	サポートされているバージョンに関する詳細
IBM Campaign インストール・ガイド	Campaign 用の Amazon Redshift ユーザー・データ・ソースの準備
IBM Campaign 管理者ガイド	<ul style="list-style-type: none"> IBM Campaign での Amazon Redshift ユーザー・データ・ソースの使用 Amazon Redshift でサポートされるデータ型 PostgreSQLTemplate の構成設定 (Campaign partitions partition[n] dataSources)

Apache Hive over Hadoop をユーザー・データ・ソースとして使用するビッグデータ統合

Apache Hadoop Hive は、**Cloudera ODBC Driver for Hive** または **DataDirect Apache Hive ODBC** ドライバーのいずれかを使用することで、ユーザー・データ・ソースとしてサポートされます。

新しく導入された **BigDataODBCHiveTemplate** を IBM Campaign でデータ・ソース・テンプレートとして使用します。

Hive ベースのビッグデータと Campaign の統合は、Linux オペレーティング・システムでのみサポートされています。MS Windows にインストールされた Campaign では、ユーザー・データベースとしての Campaign および Hive ベースのビッグデータはテストされていません。ビッグデータの Hive ベース・データベースは、システム・テーブルではサポートされていません。

Apache Hadoop Hive を Campaign データ・ソースとして使用方法については、以下の資料を参照するか、IBM Knowledge Center を検索してください。

資料	Hive サポートに関する情報
IBM Campaign リリース・ノート	<ul style="list-style-type: none"> Hive ベースの Hadoop データ・ソースに関する要件と制限 Hive サポートに関連した構成設定 Hive のサポートに関連した既知の問題と制限
推奨されるソフトウェア環境および最小システム要件	サポートされているバージョンに関する詳細。

資料	Hive サポートに関する情報
IBM Campaign インストール・ガイド	<ul style="list-style-type: none"> • Hive ベースの Hadoop データ・ソースに関する要件と制限 • Campaign での Apache Hadoop Hive ユーザー・データ・ソースの準備 (Hive ODBC ドライバーのインストールと構成、Campaign での BigDataODBHiveTemplate データ・ソースのインポートと構成、Campaign での Hive データ・ソースのマッピング、Campaign リスナー・サーバーでの SSH の構成など) • Hadoop と Campaign の統合の概要 • 統合アーキテクチャー • Hive Hadoop の用語とリソース
IBM Campaign 管理者ガイド	<ul style="list-style-type: none"> • Campaign での Hive ベースの Hadoop データ・ソースの使用 • Campaign から Hive ベースの Hadoop システムへのデータのエクスポート • Hive 照会言語の適合性 • Apache Hadoop Hive でサポートされるデータ型 • BigDataODCHiveTemplate の構成設定 (Campaign partitions partition[n] dataSources)

Hive ベースの Hadoop データ・ソースに関する要件と制限

IBM Campaign で Hive ベースの Hadoop データ・ソースを使用するには、以下の要件と制限が適用されます。

- 以下のドライバーのいずれかが必要です。ドライバーは、お客様が用意してください。
 - DataDirect Apache Hive ODBC ドライバー (Progress.com): DataDirect Connect64(R) for ODBC リリース 7.1.5。
 - Apache Hadoop Hive 用の Cloudera ODBC Driver for Apache Hive バージョン 2.5.16 (Cloudera, Inc.)
- 接続ポイントとして Apache Hive を使用することで、Hadoop ディストリビューション Cloudera、Hortonworks、IBM BigInsights™、MapR がサポートされます。
- サポートされる Hive の最小バージョン: 0.14
- 統合は現在 Linux RHEL 6.3 以降でサポートされています。
- Hive ベースの Hadoop は、ユーザー・データ・ソースとしてのみサポートされます。Campaign システム・テーブルとしてはサポートされません。
- 統合は現在、IBM Campaign の「キューブ」、「最適化」、または「インタラクティブ・リスト」プロセス・ボックス、また、「抽出」プロセス・ボックスの eMessage ランディング・ページをサポートしていません。

- Hive ベースの Hadoop ユーザー・データ・ソースは、IBM SPSS-MA Marketing Edition と統合された IBM Campaign システム、および Digital Analytics と統合された IBM Campaign システムで使用できます。

9.1.2 の Campaign dataSource 構成設定に対する変更

Apache Hadoop Hive および Amazon Redshift をユーザー・データ・ソースとしてサポートするために、2 つの新しいデータ・ソース XML テンプレートが追加され、関連する変更が

Campaign|partitions|partition[n]|dataSources|<datasourcename> 構成設定に対して行われました。

2 つの新しいデータ・ソース XML テンプレートが追加されました。

- Amazon Redshift をユーザー・データベースとしてサポートする場合:
..Campaign¥conf¥PostgreSQLTemplate.xml
- Hive ベースのビッグデータをユーザー・データベースとしてサポートする場合:
..Campaign¥conf¥BigDataODBCHiveTemplate.xml

これらの新しいテンプレートに関連する構成変更を以下に示します。構成設定にアクセスするには、「キャンペーン」 > 「設定」を選択し、

「Campaign|partitions|partition[n]|dataSources|<datasourcename>」を選択します。

構成設定について詳しくは、「IBM Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

- 新しい構成プロパティ **HiveQueryMode** が追加されました。このプロパティは、Hive ベースの Hadoop データ・ソース (BigDataODBCHiveTemplate) でのみ使用されます。これを使用して、DataDirect ドライバーと Cloudera ドライバーを切り替えることができます。 **DataDirect** の場合、「ネイティブ (Native)」を選択します。 **Cloudera** の場合、「SQL」を選択します。
- 新しい構成プロパティ **LoaderPreLoadDataFileCopyCmd** および **LoaderPostLoadDataFileRemoveCmd** が追加されました。これらのプロパティは、Hive ベースの Hadoop データ・ソース (BigDataODBCHiveTemplate) でのみ使用されます。これらのプロパティは、Campaign と Apache Hive ベースの Hadoop ビッグデータの統合の一部として一時データ・ファイルをコピーおよび削除するために使用します。
- Hive ベースの Hadoop ビッグデータのデータ・ソースを使用している場合には、**DateFormat** では、すべての日付ストリング (Date、DateFormat、DateTimeFormat、DateTimeOutputFormatString) の日付の書式設定に、ダッシュ文字「-」を使用する必要があるという点にご注意ください。Hive では、日付に対してそれ以外の文字はサポートされていません。例:
%Y-%m-%d %H:%M:%S
- Hive ベースの Hadoop では、タブ (t) 文字はサポートは **LoaderDelimiter** 値としてサポートされていません。

- **LoaderDelimiter** 値は、ビッグデータ・データベース・テーブルが作成されたときに使用された ROW 形式の区切り文字と一致する必要があります。これは、Hive と Amazon Redshift の両方に当てはまります。以下の例では、コンマを使用しています。

```
ROW FORMAT DELIMITED FIELDS TERMINATED BY ',' ;"
```

- **Type** プロパティでは、2 つの新しいタイプ **BigDataODBC_Hive** および **PostgreSQL** がカスタマー・テーブルに対してサポートされています。
- Hive ベースの Hadoop ビッグデータの **UseExceptForMerge** プロパティは、FALSE でなければなりません。Hive では EXCEPT 節がサポートされていないため、TRUE を設定するとプロセスが失敗する可能性があります。

第 3 章 IBM Campaign9.1.2 の修正された問題

以下の問題は、Campaign 9.1.2 で修正されました。

表 6. Campaign の修正された問題

ID	修正された問題
195733	推定レスポンス・トラッキングが非常に低速です。
193991	モニタリングで、失敗したフローチャートが 2 度表示されます。
193992	OLT テーブルの作成中にコード 11506 が発生します。
193960	フローチャートでユーザー変数を生成した後、eMessage プロセス・ボックスの OLT テーブル参照が壊れます。
193958	「ソース」タブで入力セルを割り当てた後、ユーザー変数ノードが eMessage ボックスに表示されません。
193948	手動セキュリティー・テストで、格納型 XSS の問題が検出されました。
193944	特定の「オーディエンス」プロセス・ボックスを開いていたときに 10404 エラーが発生します。
193952	IFRAME 注入のセキュリティー問題。
193987	他のブランチの実行中に、プロセス・ボックスが誤った構成になります。
193985	テーブル・リストの表示に時間がかかり過ぎます。新規フローチャートで 10,000 個以上のテーブルがあるデータベースからテーブルをマップしようとする、テーブル・リストのドロップダウンの表示に 5 秒から 7 秒かかり、その後、同じデータベースから同じフローチャートにテーブルをマップしようとする、テーブル・リストが表示されるまで 25 秒以上かかります。
193980	キャンペーン名を持つディメンション・テーブルが「選択」プロセス・ボックスに表示されません。
181861	Tivoli Access Manager を使用する際、ico_BatchFlowchrt.gif への要求で、WebSEAL ジャンクションが使用されません。これが原因で、フローチャートの編集モードに切り替えたときに CSRF エラーが発生します。
193947	PO04588 - 「選択」プロセス・ボックスの「一般」タブでコメントが切り捨てられます。
195744	「コンタクト履歴の消去」権限を持たないユーザーが、CH テーブルを消去することができました。
193982	テーブルをマップするときにオーディエンス・レベルがアルファベット順になりません。
193954	エラー・メッセージ「フィールド名に無効な文字が含まれています」が他の言語でローカライズされます。
193946	テーブルを再マップする際にテーブルの関係を表示することができません。
193975	複数のキーを持つディメンション・テーブルを再マップするときに 2 つ以上のキー・フィールド名を変更すると、キー・フィールドを複数追加して「次へ」をクリックすることができなくなります。
193976	ディメンション・テーブルを再マップする際に、テーブル再マップの警告がポップアップ表示されません。
193979	異なるテーブルから同じ名前のフィールドを出力する際にスナップショットで出力データベース・テーブルを変更すると失敗します。
193949	選択プロセスの事前処理および後処理でタブ文字を含む SQL を使用できません。
193989	IBM Campaign でカスタム・マクロを作成する際に、「保存先」ドロップダウンのスクロール・バーが表示されません。
193945	ターゲット・セル・スプレッドシートで、ブラウザー・ウィンドウの縦半分しか使用されません。
195742	「トリガーの実行」権限が「拒否」の場合でも、ユーザーはフローチャートを介してトリガーを実行できません。
195454	アノテーションを削除した後、フローチャートを保存できません。
195377	クラスター化されていないセットアップで、unica_svradm がリスナー・ホストに接続しない場合に、プロセスを kill することができません。

表 6. Campaign の修正された問題 (続き)

ID	修正された問題
193990	PO05019 - Campaign で構成するために「メール・リスト」プロセスを開くと、開くまでに時間がかかります。
193951	UMO_UC_integration が True の場合、エラー 10164 (このプロセスでは、コントロール・セルである TCS のセルを処理できません) が発生して、eMessage プロセス・ボックスを実行できません。

第 4 章 IBM Campaign 9.1.2 の既知の問題

Campaign 9.1.2 には、次の既知の問題があります。

表 7. Campaign の既知の問題

ID	既知の問題
194989	<p>「セグメント」プロセス・ボックスの実行中、キャンペーン・サーバーのプロセスがエラー 10404 で異常終了します。</p> <p>回避策: 「抽出テーブルの作成」にチェック・マークが付けられているすべての「セグメント」プロセス・ボックスで、以下を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「セグメント」プロセス・ボックスの「抽出テーブルの作成」オプションのチェック・マークを外します。 2. 「セグメント」プロセス・ボックスの下に「抽出」プロセス・ボックスを追加し、後続のプロセスでこの抽出の出力を使用します。
195836	<p>セッション・フローチャートをクリックすると、「ページがロードされるまでお待ちください」というエラー・メッセージが表示されます。この問題は、セッション・フローチャートの編集モードで「保存して終了」をクリックしてフローチャートを終了し、「セッション・サマリー」ページにナビゲートしてから再び「フローチャート」タブをクリックする、という特定の状況で発生します。回避策: 「セッション一覧」ページにナビゲートしてからフローチャートに再びアクセスすると、表示モードで開くことができます。</p>
196761	<p>Chrome/IE11: 一部のロケールでは、「使用可能なフィールド」ボックスが、「選択」プロセス・ボックスおよび「抽出」プロセス・ボックスの「使用」ボタンと「プロファイル」ボタンの上に重ねて表示されます。この問題は、Chrome および IE11 ブラウザーを使用する場合に限り、英語とフランス語を除くすべてのロケールで発生します。IE10 ではこの問題は発生しません。回避策: 重ねて表示されないように、「選択」/「抽出」プロセス・ボックスのサイズを変更します。</p>
198739	<p>フローチャートの「詳細設定」の下で「データベース内最適化を使用する」を選択すると、「トラッキング」プロセス・ボックスおよび「レスポンス」プロセス・ボックスの実行がエラー 10404 で失敗し、スタック・トレースが生成されました。</p> <p>回避策: 「トラッキング」プロセス・ボックスまたは「レスポンス」プロセス・ボックスを他のプロセス・ボックスと一緒に含むフローチャートの「データベース内最適化を使用する」を無効にします。それが可能でない場合は、新規フローチャートを作成し、その新規フローチャートに「トラッキング」、「レスポンス」、またはその両方と「選択」のみを構成します。ここで「データベース内最適化を使用する」を有効にすることができます。</p>
185658	<p>ビッグデータ: ローダー区切り文字 "¥" の場合、データをビッグデータの出力テーブルにコピーできません。</p> <p>Hive ベースの Hadoop ビッグデータは、タブ文字 (t) をサポートしていません。タブ文字を LoaderDelimiter 値として使用しないでください (Campaign partitions partition[n] dataSources dataSourceName)。</p>
194575	<p>ビッグデータ: 「抽出テーブルの作成」オプションにチェック・マークが付けられていると、「セグメント」プロセス・ボックスの実行がエラーで失敗します。回避策: 「セグメント」プロセスの下に「抽出」プロセスを配置して、「セグメント」内での「抽出」を実行できます。</p>

表 7. Campaign の既知の問題 (続き)

ID	既知の問題
194516	<p>アップグレード: リスナー・クラスターを 9.1.1 から 9.1.2 にアップグレードするときには、ファイルを Campaign/パーティションからリスナー共有ホームにコピーするためのインストーラー画面が表示されるべきではありません。</p> <p>この問題は、9.1.1 から 9.1.2 へのリスナー・クラスターのアップグレードに影響を与えません。基本インストーラーがリスナー・クラスター化環境の場合、アップグレード・インストーラーに画面「リスナー・ファイルを共有ネットワーク・ロケーションに移動する (Move Listener Files to Shared Network Location)」が表示されるべきではありません。リスナー・ファイルは既に共有ネットワーク・ロケーションにあるからです。回避策: リスナー・クラスター化のための基本セットアップが既に構成されている場合、画面「リスナー・ファイルを共有ネットワーク・ロケーションに移動する (Move Listener Files to Shared Network Location)」上の「手動」ラジオ・ボタンを選択します。</p>
該当なし	<p>ビッグデータ: Hive サーバー上の一時データ・ファイルのアップロード・ロケーションは /tmp でなければなりません。</p> <p>Hive ベースの Hadoop データ・ソース (BigDataODBCHiveTemplate) には、プロパティ LoaderPreLoadDataFileCopyCmd (Campaign\partitions\partition[n]\dataSources\dataSourceName) が使用されます。このプロパティは SCP を使用して、IBM Campaign から Hive ベースの Hadoop システム上の temp フォルダーにデータをコピーします。現在、このロケーションは /tmp にする必要があります。これは HDFS ロケーションではなく、ファイル・システムのロケーションでなければなりません。</p>
175825	<p>defaultBehaviorWhenOutputToFile を「新規ファイル作成」に設定しても、初めて新規出力 (エクスポート) ファイルを選択する場合にしか正常に動作しません。既存の出力ファイルを変更して新規出力ファイルを選択しようとする、オプション「データ追記」がデフォルトで選択されます。これは、手動で「新規ファイル作成」に変更できます。</p>
176876	<p>「ユーザー変数名」に 21 文字を超える DBCS を入力すると、次のエラー・メッセージが表示されます。11532 長さ超過エラー: 位置 [0] の UserVar でユーザー変数名が 64 文字を超えています</p>
177300	<p>最上位の「セグメント」プロセス・ボックスから抽出されたフィールドが、「選択」プロセス・ボックスの「ユーザー定義フィールド」ウィンドウに表示されない。「セグメント」プロセス・ボックスからエクスポートされたフィールドが、「選択」プロセス・ボックスの「ユーザー定義フィールド」ウィンドウの「抽出」ノードの下に表示されるはずですが。</p>
177430	<p>「セグメント」プロセス・ボックスで、「データ・フィールドで作成」を「照会で作成」に変更した後、セグメントが正しく入れ替わらない。この問題は、フィールドが何度も繰り返しソートされた場合にのみ発生します。このアクションを 1 回や 2 回実行しただけでは発生しません。セグメントを上または下に移動し、「照会で作成」と「データ・フィールドで作成」の間で切り替えると、セグメントが正しく入れ替わりません。例えば、セグメント 3 の代わりにセグメント 1 の照会が表示されます。</p>
147356	<p>Resize_Maillist_Parameter_Assign 値: ユーザーがドロップダウン矢印の外側をクリックしても、ドロップダウン・リストが非アクティブな状態に戻りません。この問題は、Internet Explorer でのみ発生します。この問題は、ツリー選択ウィジェットを使用するドロップダウン・リストに影響します。</p>
164028	<p>フランス語では、Cognos レポートを Campaign で使用できません。</p> <p>特定のユーザーに対して製品の言語を変更するには、アプリケーション・レポート・パッケージの言語に合わせて製品の言語を設定します。製品の言語を設定するには、Cognos Connection を開き、「ユーザー設定」の下で、対応する製品の言語を設定します。コンテンツの言語は変更しないでください。コンテンツの言語を変更する場合は、対応するレポートの XPath も変更する必要があります。</p>
178526	<p>Campaign_Install.log における、致命的ではない次のエラーは、無視してかまいません。Campaign のインストーラーを中断してから再開すると、次のエラーが記録されます。</p> <p>「com.unica.install.ia.custom.ManagerReadConfigurationStatus: ERRORAdditional 説明: エラー - class com.unica.install.ia.custom.ManagerReadConfiguration NonfatalInstallException "[xX][mM][IL]" と一致する処理命令ターゲットは許可されません。」</p>

表 7. Campaign の既知の問題 (続き)

ID	既知の問題
該当なし	<p>フローチャートの実行時に、エラー「31606: 履歴テーブルが変更されました (31606:History table are changed)」が出されて「メール・リスト」プロセス・ボックスの構成が解除される。</p> <p>1. フローチャートの作成とメール・リスト・プロセスの追加の前に履歴テーブルがマップされる場合は、問題がありません。 2. ステップ 1 に従わない場合でも、エラーが表示された後に履歴テーブルをマップできます。フローチャートを編集し、プロセス・ボックスを構成すれば、プロセスは実行されます。</p>
該当なし	<p>非 ASCII データを Campaign 8.6 にマイグレーションした後、ターゲット・システムで Campaign フローチャートを開くことができない場合があります。セッション・フローチャートは正常に開きます。この問題を回避するには、上書きモードでキャンペーンを再度マイグレーションします。これで、フローチャートを開くことができます。</p>
2968	<p>ほとんどのウィンドウにホット・キーが実装されていません。Dojo 実装では、キーボード・ショートカットを使用して一部の機能をアクティブにすることができません。ユーザーはその代わりにボタンをクリックしなければなりません。</p>
13460	<p>「メール・リスト」プロセス・ボックスの「実現」タブで「ファイルにエクスポート (Export to File)」オプションがチェックされていないとき、「サマリー・ファイル」オプションが有効になります。しかし、これは有効になるべきではありません。</p>
13502	<p>CH テーブルのフィールド名が変更された際に、UI から DCH をマップする手段が必要です。UA_ContactHistory テーブルの列名を変更した後に、UA_DtlContactHistory テーブルをマップする手段がなければなりません。UA_DtlContactHistory をマップするには、(ソース・テーブル・フィールドと必須フィールドが一致するように) ソース・テーブルの列名を適宜変更してから、テーブルをマップします。</p>
TT DEF062333	<p>関連付けられた製品に関する情報が、Marketing Operations でオファーに表示されない関連付けられた製品を伴う Campaign で作成されたオファーが、Marketing Operations でインポートされる際に、関連付けられた製品に関する情報が Marketing Operations で表示されません。</p>
TT DEF063392	<p>最初にマップしておかないと、Digital Analytics 変換テーブルをセグメント・プロセス・ボックスで使用できません。変換テーブルが最初にマップされなかった場合に、変換テーブルまたは他のユーザー・テーブルをセグメント・プロセス・ボックスで使用できません。</p>
75262	<p>「前のページに戻る」をクリックすると、UI が崩れる場合がある。ブラウザのコントロールではなく製品内のリンクを使用してナビゲートしてください。</p>
90956	<p>「抽出プロセス構成」ダイアログを開き、何も変更を加えずに「OK」をクリックすると、「プロセスの実行結果が失われます。続行しますか?」というメッセージが表示されます。変更を加えていない場合、このメッセージは表示されるべきではありません。</p>

第 5 章 IBM Campaign 9.1.2 の既知の制限

Campaign 9.1.2 には、次の既知の制限があります。

表 8. Campaign の既知の制限

ID	既知の制限
該当なし	ビッグデータ: フローチャート内のプロセス・ボックスに対して UPDATE 操作を実行するには、ACID プロパティをサポートするように HIVE テーブルがトランザクション・テーブルとして構成されている必要があります。これは、HIVE バージョン 0.14 で導入された主要機能です。
190621	ビッグデータ: ユーザー・データベースとして Hive ビッグデータを使用する Campaign では、最大 4 階層のベース・レベルおよびディメンション・レベルを使用してユーザー・テーブルをマッピングすることはサポートされていません。 ベース・レコード・テーブルを「選択」プロセス・ボックスで 4 つのレベルのディメンション・テーブルとマップし、4 番目のレベルのディメンション・テーブルに基づいて照会をビルドすると、照会はエラー 11528 で失敗します。この問題は、ビッグデータ・ユーザーに影響を与えません。複数のディメンションは必要ないからです。定義上、ビッグデータ・ソースは、Hadoop ノード (HDFS など) 全体に大規模なテーブルのレコードを分散させています。
185854	ビッグデータ: MS Windows オペレーティング・システムでは、ユーザー・データ・ソースとして使用する Hadoop ベースの Hive ビッグデータとの Campaign の統合がテストされていません。
194095	Redshift データベースで、データを「スナップショット」プロセス・ボックスからエクスポートする際に、「サポートされないタイプのタイムゾーン付きタイムスタンプ (Unsupported type timestamps with time zone)」というエラー・メッセージが表示されます。タイム・ゾーン付きタイム・スタンプは、Amazon AWS ではサポートされない PostgreSQL データ・タイプです。
194806	BLU: オプション「レコード置換」を指定してレコードをエクスポートすると、「スナップショット」プロセス・ボックスの実行がエラーで失敗します。このエラーは、BLU DB2 データベースで、「レコード置換」を選択した場合にのみ発生します。これは「データ追記」では発生しません。
該当なし	IBM WebSphere Application Server を使用して IBM Interact を構成する場合: JDK 1.7 を使用するようには IBM WebSphere JVM を構成する必要があります。IBM WebSphere Application Server 8.5.5.x に JDK 1.7 および HTTPS 通信を構成する場合は、IBM JAVA SDK バージョン 7.0.8.10 以降を使用する必要があります。
該当なし	未加工 SQL 照会で複数の SQL ステートメントを使用することは、ビッグデータのユーザー・データ・ソースでは現在サポートされていません。関連情報については、IBM Knowledge Center の「Hive 照会言語の適合性」を検索してください。
195581	キャンペーン・フローチャートの実行中にリスナーが異常終了または停止すると、ユーザーはその実行中のフローチャートに UI からアクセスできなくなります。要求はクラスターの別のノードによって処理されますが、このフローチャートにアクセスすると「リスナーのフェイルオーバーが発生しました... (listener failover occurred...)」というポップアップ・メッセージが表示されます。マスター・リスナーを再始動する必要がある場合があります。
196487	DataDirect + Cloudera: 出力テーブル列のフィールドのいくつかマップされない場合、「スナップショット」プロセス・ボックスの実行が失敗します。これは、Hive 0.14 データベースに関連した既知の問題に関連しています。回避策: マップされたデータベース・テーブルのフィールド数より少ない数のフィールドを抽出する場合は、ユーザー定義フィールドまたはユーザー変数で埋めるか、デフォルトの望ましい値 (NULL など) で埋めます。

表 8. Campaign の既知の制限 (続き)

ID	既知の制限
184919	<p>ビッグデータ: 「メール・リスト」プロセスの実行が、ユニーク制約 (UCDUC9111.CCONTACTHIST_PK) 違反というエラーで失敗します。</p> <p>ユーザー・データベース・テーブル - オーディエンス・レベルが BigInt の場合、「メール・リスト/コール・リスト」プロセス・ボックスの実行は正常に完了します。しかし、以下のことが言えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザー・プロフィール・テーブルに 10 進数形式のオーディエンス ID が含まれている場合は、このエラーは発生します。 ユーザー・プロフィール・テーブルがファイルからデータベースへのエクスポートによって作成された場合、デフォルトでは、すべての数値フィールドが 10 進数として作成されます。 <p>ビッグデータの場合: ユーザー・プロフィール・データベース・テーブルのオーディエンス ID は、DB2 データベースで使用する場合、BigInt タイプである必要があります。ユーザー・プロフィール・データベース・テーブルのオーディエンス ID が 10 進数の場合、「メール・リスト/コール・リスト」プロセス・ボックスの実行でエラーが発生します。</p>
186489	<p>ビッグデータ: 直前の「選択」プロセス・ボックスでセル・サイズの制限を使用している場合に、「スナップショット」プロセス・ボックスに「エクスポートされたレコード = 不明 (Record exported = Unknown)」と表示されます。</p> <p>(1) INSERT INTO SELECT FROM の照会で「スナップショット」にデータを設定する場合、レコード数は不明です。レコード数が必要な場合は、ベース・テーブルとしてマップしてください。そうすると、レコード数が Campaign によって計算されます。(2) ローダー (LOAD DATA) を呼び出すと、レコード数が認識され、更新されます。テーブルをマップする必要はありません。</p>
該当なし	<p>Web アプリケーション・クラスタリングは、スタンドアロン Campaign (他の製品と統合されていないもの) においてのみサポートされています。例えば、現在 eMessage、Interact、Contact Optimization、または Marketing Operations を使用している場合、クラスタ化 Web アプリケーション環境を構成しないでください。スティッキー・セッションのみがサポートされています。スケーラビリティを重視した製品であるため、セッション複製は行われません。フェイルオーバーは実装されていません。</p>
該当なし	<p>フローチャート注釈は、ズームの影響を受けません。注釈のサイズは変更できません。注釈はパン操作領域には表示されません。注釈はフローチャート・ウィンドウの外側に移動する可能性があり、それらにアクセスするには、関連するプロセス・ボックスを注釈の方向に移動してから、注釈をドラッグしてメイン・フローチャート領域に戻し、プロセス・ボックスを元の位置に戻す、という方法しかありません。注釈とプロセス・ボックスが重なり合う場合、注釈を別の位置にドラッグします。</p>
176377	<p>ユーザー DB の DB2 10.5 BLU: Campaign データ・ソースの一時テーブルに索引付けの要件がありません。DB2 10.5 (BLU 機能が ON) では、Campaign で索引付けが必要ありません。Campaign には、データ・ソース用のプロパティがあります。例えば、TempTablePreTruncateRunScript、TempTablePostExecuteSQL、PostTempTableCreateRunScript など、その中で SQL やスクリプトを使用してユーザー・データベース・テーブルに索引を作成できます。DB2 10.5 をカスタマー・データベースとして使用していて、BLU 機能が ON になっている場合、これらの一時テーブル・プロパティを構成する必要はありません。</p>
該当なし	<p>ダイアログの動作: フィールドをアクティブにしたり、フィールド値を変更したりするために 2 回クリックする必要がある場合があります。</p>
該当なし	<p>CampaignMonitoring の monitorEnabledForEmessage 構成プロパティは現在使用されていません。</p>
該当なし	<p>関連製品に関する制限: IBM Marketing Operations からオファー管理を行う際は、製品 ID をオファーに関連付ける「関連製品」機能を使用できません。</p>

表 8. Campaign の既知の制限 (続き)

ID	既知の制限
該当なし	<p>メール・リスト・プロセスでのユーザー定義フィールドからの結果が空であるか、または正しくない。これが発生するのは、値が変わる生成フィールド (UCGF) を呼び出すユーザー定義フィールドが使用されるプロセス・ボックスに限られます。</p> <p>メール・リストのユーザー定義フィールドでは、UCGF が定数でない場合に UCGF を使用しないでください。また「パラメーター」タブから、オファー属性にデータを設定するために UCGF を呼び出すユーザー定義フィールドを作成しないでください。</p> <p>詳しくは、次の技術情報を参照してください。 http://g01zciwas018.ahe.pok.ibm.com/support/dcf/preview.wss?host=g01zcidbs003.ahe.pok.ibm.com&db=support/swg/istech.nsf&unid=C4A93DC0ED188D6985257A6B00699C45&taxOC=SSCKNRB&MD=2012/08/31%2015:08:35&sid=</p>
該当なし	<p>Campaign 生成フィールド (UCGF) をプロファイルしても、正しい結果が生成されない。一部の UCGF の値は、セルまたは処理されるオファーに依存します。セル関連の UCGF の場合、プロファイル中は最初のセルに関連付けられた値だけが表示されます。</p>
該当なし	<p>ターゲット・セル・スプレッドシートを開いたときに、カスタム・セル属性のデフォルト値が表示されない。デフォルト値は、最初表示されませんが、使用されます。ターゲット・セルのスプレッドシートでカスタム・セル属性をクリックするか開いて編集することにより、値を表示したり変更したりすることができます。</p>
該当なし	<p>UA_UsrResponseType.Name フィールドに、左括弧とそれに続く単一引用符とを含めることができません。</p>
該当なし	<p>複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用する。</p> <p>Campaign 内の複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップし、それらのデータ・ソースのうちの 2 つ以上に同じ TempTablePrefix を使用すると、孤立した一時テーブルを削除するためにクリーンアップ・ユーティリティを使用したときに、実際には別の Campaign データ・ソースから定義された適正な一時テーブルであるのに、孤立した一時テーブルであるように間違えて識別してしまう場合があります。</p> <p>削除された一時テーブルがあっても、関係するフローチャートを再実行するとその一時テーブルは自動的に再作成されますが、ベスト・プラクティスとして、複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用してください。</p> <p>Campaign で定義されるデータ・ソースがデータベース内の別のスキーマにマップされる場合、もう 1 つの解決策は、クリーンアップ・ユーティリティを実行するデータベース・ユーザーが、同じデータベースの別のスキーマのテーブルをドロップする権限を持たないようにすることです。</p>
11162	<p>一部のダイアログ (大量のデータが含まれないものや、通常使用されないもの) はサイズ変更やサイズの最大化を実行できません。</p>
17202	<p>エラー 19024: セグメント・フォルダーからセグメントが削除された場合に、そのフォルダーを削除できない。フォルダーから削除されたセグメントは、そのフォルダー内で非アクティブなセグメントとして残ります。非アクティブなセグメントを含むフォルダーは、削除できません。これは所定の動作です。</p>
18991	<p>同じフローチャートが複数のロケールで編集されている場合、好ましくない動作が引き起こされるおそれがあります。この状態は、言語設定の異なる複数のユーザーが、同じフローチャートを編集する場合にのみ発生します。ロケールの異なる複数のユーザーは、別のロケールのユーザーによって作成された同じフローチャートを編集するべきではありません。そのようにすると、好ましくない動作が引き起こされるおそれがあるためです。推奨されているのは、言語設定が同じユーザーがフローチャートを作成および編集する方法です。</p>

表 8. Campaign の既知の制限 (続き)

ID	既知の制限
84147	プロセス・ボックスおよび他のダイアログでのコピー・アンド・ペースト動作: セキュリティー上の理由により、一部のブラウザでは、アプリケーションによるクリップボード経由のコピー・アンド・ペーストが許可されていません。この影響を受けるのは、コピー・アンド・ペーストを使用する可能性がある、セグメント・プロセス構成の「全般」タブとアプリケーションの他の領域です。
161323	「 IBM Marketing Platform セキュリティー ログイン 」メソッドが「 Windows 統合ログイン 」または「 Web アクセス制御 」に設定されている場合、キャンペーン・ユーティリティーにログインしようとする時、「ログインに失敗しました。エラー 10553」というエラーが発生する可能性があります。この問題を回避するため、キャンペーン・ユーティリティーを使用する前に、ログイン・タイプを「 LDAP 」または「 IBM Marketing Platform 」に変更してください。
201968, 200241	フローチャートで 2 つのプロセス・ボックスを非常に近くに移動させると、接続矢印の向きが変わります。この制限は、矢印のビジュアル表示に影響します。プロセス・データ・フローには影響ありません。これを回避するには、2 つのプロセス・ボックスの距離を離して、矢印が正しい方向を向くようにします。

第 6 章 IBM Campaign Reports Package

Campaign Reports Package は、キャンペーン、オファー、およびセルのパフォーマンスを追跡するために使用できるレポート・スキーマを提供します。Reports Package を使用するには、Campaign が IBM Cognos と統合されている必要があります。

詳しくは、IBM Marketing Platform に付属の「*IBM EMM Reports* インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

IBM Campaign Reports Package には、以下の項目が含まれています。

- インストール時に IBM Marketing Platform に登録されたスキーマ。これらは、製品のレポート・スキーマを表す属性とメトリックを記述したもので、以下のものが含まれています。
 - レポート・スキーマの基礎となる基本スキーマ (カスタム属性なし)
 - Campaign 用に事前構成されたカスタム属性に依存する、大部分の基本スキーマのカスタム・バージョン
 - 新しいスキーマを作成するために使用できるテンプレート
- IBM Cognos BI サーバーに配置される、IBM Cognos のカスタマイズ可能なモデルとレポート
- IBM Cognos モデルとレポートについて説明した参考資料。これらの資料はディレクトリー ReportsPackCampaign¥cognos10¥CampaignDocs にあります。

Campaign レポートは、1 つのデータ・ソース、すなわち Campaign システム・テーブルからデータを取得します。

レポート・スキーマ

以下のレポート・スキーマが用意されています。

- 「キャンペーン・ビュー」では、Campaign システム・テーブルの標準属性ビューを見ることができます (キャンペーン、オファー、セルなど)。
- 「キャンペーン・カスタム属性」は、キャンペーン、オファー、およびセルのカスタム属性に関するレポートを作成するためのものです。
- 「キャンペーン・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、キャンペーン・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「オファー・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、オファー・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細」は、レスポンス・タイプに基づく、キャンペーンとオファーのレスポンスを示すレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳」は、コンタクト・ステータスに基づく、キャンペーンとオファーのコンタクトの測定に使用します。

カスタム・スキーマでは、上記にリストされたスキーマの最後の 5 つを拡張して、デフォルト、事前構成済みのレスポンス・タイプ、カスタム属性などを組み込みます。

テンプレート

追加のオーディエンス・レベルがある場合は、それらのために、以下のテンプレートを使用して追加のレポート・スキーマを作成することができます。

- キャンペーン・ビュー
- キャンペーン・カスタム属性
- キャンペーン・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス
- キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細
- キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳

レポート

Reports Package には Cognos サンプル・レポートが入っており、それらのレポートには、キャンペーンまたはオファーの「分析」メニューまたは「分析」タブからアクセスできます。またレポートは、ダッシュボード上のポートレットに表示することも可能です。

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポートは、キャンペーンの「分析」タブから取得できます。

- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)

以下に示すオファーのサンプル・レポートは、オファーの「分析」タブから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示す、オブジェクト間で共通のサンプル・レポートには、Campaign の複数のオブジェクトに関する情報が含まれています。これらのレポートは、Campaign 分析ページから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス

- キャンペーン・パフォーマンス比較
- キャンペーン・パフォーマンス比較 (収益を含む)
- イニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス比較
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- キャンペーン・サマリー
- オファー・キャンペーンのリスト
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス比較
- オファー・パフォーマンス・メトリック
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポート・ポートレットは、ダッシュボード・ページから取得できます。

- キャンペーン奏効率の比較
- キャンペーン投資収益率の比較
- オファー別のキャンペーン収益比較
- オファー・レスポンスの詳細
- オファー奏効率の比較
- 最終 7 日間のオファー・レスポンス

IBM 技術サポートへのお問い合わせ

資料を参照しても解決できない問題が発生した場合は、貴社の指定サポート窓口から IBM 技術サポートにお問い合わせすることができます。問題を効率的に首尾よく確実に解決するには、問い合わせる前に情報を収集してください。

貴社の指定サポート窓口以外の方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質についての簡単な説明
- 問題の発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手できる、製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、技術サポートではお客様の環境に関する情報をお尋ねすることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、ご使用の IBM のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページにアクセスするには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択してください。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合は、各アプリケーションのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示すると、任意の IBM アプリケーションのバージョン番号を入手することができます。

IBM 技術サポートのお問い合わせ先

IBM 技術サポートへのお問い合わせ方法については、「IBM Product Technical Support」の Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは、できるだけ IBM カスタマー番号にリンク済みのアカウントにしてください。お客様の IBM カスタマー番号とアカウントとの関連付けについて詳しくは、サポート・ポータル「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
B1WA LKG1
550 King Street
Littleton, MA 01460-1250
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式

においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置するこ

とを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』
<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/> の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan